診療室

「Give and Take」の理念

森田泰典[†]（森田動物病院院長）

大学卒業後，名古屋市内の動物病院に3年間勤務した後，現在の動物病院を開院して17年が経過した．勤務開始時から愛知県では最大級の臨床研究会に所属し，勤務先の院長はじめ諸先輩方から多くのことを学ばせていただき，研究することの重要性を教えていただいた．

10年ほど前から研究会は休会しているが，今を遡ること8年前，大学時代の研究テーマが血清蛋白に関連したものであったことから，犬の急性相蛋白に興味を持った．いままでは把握できなかった組織損傷や炎症の程度を鋭敏かつ正確に，また客観的に数値で把握し，診療を向上させる目的で，院内でC-反応性蛋白（CRP）とα_1-酸性糖蛋白（α_1AG）の測定を始めた．一番初めにCRPを測定した症例は，クリプトッコッカス脳炎のラブラドール・レトリバーであった．この症例は死後に確定診断されたが，日に日に一般状態が悪化していくのにも関わらず，CRPもα_1AGもほとんど上昇せず経過した．また脊髄軟化症で死亡したトイ・プードルにおいても同様の結果であった．これら死に至るような重篤な症例において，なぜ急性相蛋白が増加しなかったか得心できなかったため，急性相蛋白測定の意義を確かめたく，その後は片っ端から測定していった．

その時，友人の獣医師から犬の多中心型リンパ腫におけるα_1AG測定の有用性についての論文を教示いただき，勤務先だった病院の院長とともにリンパ腫犬におけるα_1AGの変動についての研究を始めた．研究の過程でα_1AG測定キットの製造元であるメタボリックエコシステム研究所の前所長で，医学博士の田村啓二先生に多大な指導，助言と多数の論文をいただき，一介の開業医である私が，研究の成績をまとめ，論文にして発表するということができた．このご縁がなければ，私のその後の論文の作成はできなかったものと感謝に堪えない．

月日が経ち，CRPとα_1AGを測定してきた症例が蓄積しはじめ，疾患によっては測定成績を論文にまとめることができるようになって，本誌（学会学術誌）にも何度か投稿させていただいた．縁あって，現在，大学で教鞭をとっておられる教官に論文の内容についてアドバイスをいただけるようにもなった．また本誌投稿の際には審査員の方々の意見，指導によって，自身の論文の意義をより深めることができたことは，大変幸せなことと感じている．

研究した結果を論文にまとめることで，CRPやα_1AG測定値の解釈を深めることができ，日常診療において大きく役立つようになった．私の仕事はあくまで臨床獣医師であり，研究してきたことを自分の診療に活かしていくことは当然のことである．研究とは関連がないが，私より開業が一年早かった獣医師から，開院時に身に余るお祝いや教示をいただいた．その方からは，「私があなたにしていることに対するお返しは，私にではなく，次に開業していく後輩たちに返していきなさい」と教えていただいた．これは先の研究会の基本理念である「Give and Take」であり，諸先輩方から与えてもらっていた立場から，後輩の獣医師たちに，自分が得た知識や経験を教え与える立場になっていかなければならないと思っている．

これまで，多くの素晴らしい先輩方に巡り会うことができ，その力添えにより，少しずつではあるが成長できたと実感するとともに，自分独りだけの力では，絶対に今の自分はなかったものと確信している．映画俳優や歌手が賞をもらった際，挨拶の第一声は，スタッフや家族への感謝のメッセージであり，若い時はなんて空々しいことを平気で言えるものだと感じていた．しかし，今の自分は，指導いただいた先輩方，さらには現在の仕事や研究ができる環境を整えてくれた獣医師でもある妻，長年勤務し支えてくれた看護士の方々にも心から感謝の気持ちであふれている．

これからも，このような気持ちを忘れずに，「Give and Take」の理念の下で，大きな視野に立ち動物臨床の発展に貢献したい．

森田泰典

—略　歴—

1990年　岐阜大学卒業
名古屋市内の動物病院に勤務

1993年　愛知県知多市にて森田動物病院を開院

† 連絡責任者：森田泰典（森田動物病院）
〒478-0022　知多市大興寺字長根67-4　☎0562-56-1710　FAX 0562-56-1769
E-mail : morita-vet@mti.biglobe.ne.jp